

世界舌側矯正歯科学会で 「ベスト症例賞」受賞

第10回世界舌側矯正歯科学会で、神宮前矯正歯科院長の齊宮康寛氏が発表した症例「開口、埋伏切歯、骨格性の反対咬合を伴う症例に対する i—statition を用いた非外科的治療の一例」が「ベスト症例賞」を受賞した。同学会は、イタリアのローマで3月6日から8日に開催された。

同賞は、歯科医師16人の講演者がそれぞれ10分ずつ症例を発表し、参加者の投票で選出。齊宮氏の技術と、口蓋型歯科矯正用アンカースクリュー装置「i—statition α」が世界で

歯科医師で共同開発者の齊宮康寛氏

高く評価された。

i—statition α は、医療機器の販売・開発などを行うオカダ医材と齊宮氏が共同で開発。口蓋に2本（最大4本）のスクリューを埋めて安定した土台を作り、上部のパーツを組み合わせて歯を3次元的に動かせる。

同製品の使用により、従来は外科手術以外に方法がなかった症例を歯科矯正のみで治療できるという。サイズと強度のバランスを追求した結果、試作品は100回以上作製し、開発には20年を要した。